

【11 南阿蘇村 Minamiaso Village】



俵山峠展望所から

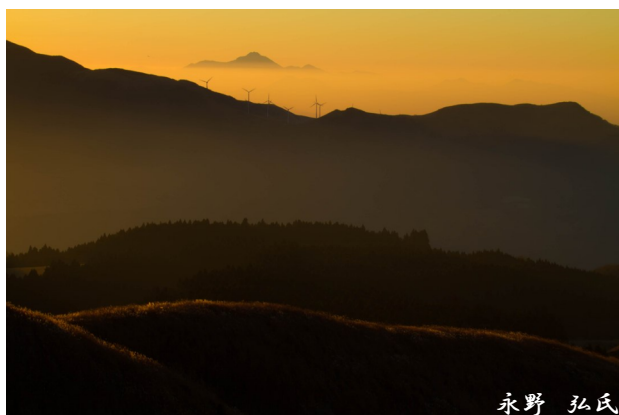
南阿蘇村では、中央火口丘(阿蘇五岳)の烏帽子岳や草千里展望所、御竈門(おかまど)山や夜峰山、南外輪山の大矢野岳や大矢岳、清水峠や俵山峠、西の立野峡谷から、白川流れる熊本平野・金峰山系越しに“[東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。京都大学の火山研究センターの丘からも眺望できます(↓)。↑の写真で見られるような雲仙岳～金峰山～阿蘇山(高岳)の火山列のラインや、これらの山々と古代創建の神社・仏閣が形成する歴史的な大三角形(※阿蘇地域のページ参照)のラインを、各所から視認することが可能です。

雲仙岳望める夜峰山の北側には地獄地帯があり、乳白色の硫黄泉“すずめの湯”が人気ですが、雲仙岳の中腹一帯に広がる雲仙地獄にも乳白色の硫黄泉が湧いており、その一角には“すずめの地獄”があります。いずれも、お湯が湧く際の音が“ピチピチ”とすずめが鳴いているように聞こえる、ということから名づけられています。また、村内を流れる白川は、“鮎帰の滝”を通過して立野峡谷に入りますが、雲仙岳の南麓の有家川にも“鮎帰の滝”があり、鮎が遡上できないくらいの急な滝、ということに由来しています。

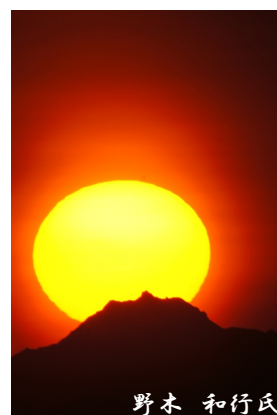
村内の南郷谷を流れる白川は、阿蘇市の阿蘇谷を流れる黒川と合流し、立野峡谷・熊本平野を通過して有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を白川や緑川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、南阿蘇村内を旅してみませんか？

●南阿蘇村の観光情報はこちら ⇒ 南阿蘇村観光協会 <http://minamiasokanko.jp/>



県道 111 号線(阿蘇南登山道)から



京大火山研の丘から